

## 平成25年度 地域発 元気づくり支援金事業総括書

事業名	原始感覚美術祭 2013 と原始感覚の里プロジェクト
事業主体 (連絡先)	原始感覚美術祭実行委員会 長野県大町市平10901
事業区分	(3) 教育、文化の振興に関する事業 (6) ア 特色ある観光地づくり
事業タイプ	ソフト
総事業費	3,090,808 円 (うち支援金: 2,190,00 円)

### 事業内容

原始感覚をテーマに木崎湖畔で滞在制作と、イベントを行う美術祭。(開催期間: H25年8月3日~9月8日)  
田島征三、水川千春、浅井裕介、パクボンギ、香川大介、アンドレアハックル、キムヨンミン、やまなみ工房作品、シルバジョグルカー、槇野文平、杉原信幸、茂木健一郎、関野吉晴・田口ランディ対談、朝崎郁恵、スパンコスモタテタカコライブ、戦争絨毯展、青島左門、本郷毅史他常設作品を増設し、木崎湖畔に原始感覚の里を形成した。



### 事業効果

関野吉晴、田口ランディの対談で、アフリカから人類が辿った旅と日本人のルーツについて深い対話が行われた。美麻小中学校、八坂小学校全校生徒とワークショップを行い、重文旧中村家住宅に展示することで、地域の文化教育に貢献した。アンドレアハックルと東海ノロ神楽保存会のコラボレーションはアートと伝統文化の新しい可能性を示した。NHK長野放送局の「イブニング信州」に紹介され、木崎湖、大町の美術祭を多くの人に認知させた。目標値の事業収入 60万円→90万円を実現した。

美術祭延べ観客数 6600人→のべ約 8492人 (前年比 28%増)

木崎湖地区の民宿の宿泊数前年比 50人増

※1 自己評価 (事業実施率) 【 A 】

#### 【目標・ねらい】

- 西丸震哉の原始感覚の普及
- 大地と生きる叡智の伝承
- 大町の文化による活性化
- 滞在制作による文化創造と新しい原始の里づくり

### 今後の取り組み

初めて行った公募の参加作家は、木崎湖の風土を新鮮な感覚で表現し、大きく可能性の幅を広げた。来年度も引き続き公募を行いたい。作家と寝食を共にした美術祭サポーター湖畔隊には、夏の一時だけ現われる湖の家族のような一体感が生まれた。メンバーは稲刈りを手伝い、来年の企画書を制作し、美術祭の運営に参加して、より充実した運営体制の構築していく。来年度、大町市制 60周年に行われる、北川フラムコーディネートの「信濃大町 食とアートの廻廊」と連携し、より多くの人が大町を知り、愛し、そこに住むような地域づくりと美術祭を行いたい。

※2 自己評価 (事業効果) 【 A 】

※1 自己評価 (事業実施率) 欄は、「A」90%以上、「B」70~89%、「C」50~69%、「D」49%以下で示すこと。

※2 自己評価 (事業効果) 欄は、以下から選択のこと。

「A」: 予定を上回る効果が得られた 「B」: 予定していた効果が得られた

「C」: 一定の事業効果はあったが事業実施方法や今後の活用等について、工夫や改善を要する点がある